

教育研究所だより



宮古島市立教育研究所
 指導主事 砂川 睦紀
 宮古島市平良字西里1140
 TEL 73-1104

運動療育を活用した特別支援指導員派遣プログラム

栄 孝之先生（レジリエンス・スポーツセンター代表）が来島して、14日（火）・15日（水）の2日間、南小学校と平一小学校を巡回しました。両校とも朝から夕方までじっくり時間をかけての参観とフィードバック（校内研）となりました。毎回ながら、短時間で、しかもピンポイントに子ども達を見取る栄先生の「目」。ほんとうにすごいです。そして先生方を勇気づける、明日へ繋がるフィードバック。いつもそばで聞かせて頂いて、心が癒やされています。それでは今回の様子と先生方からいただいた感想を紹介しします。今後の活用の参考にして下さい。

6/14 南小学校・6/15 平一小学校

宮古島市立南小学校 9:00~16:45

南小学校では、幼稚園からスタートして、2校時～6校時までの間に特別支援教育コーディネーターの伊良部千賀子先生の案内のもと、全学年全学級の様子を参観させて頂きました。その後15:00より小学校全職員参加で校内研修として栄先生による講話と授業観察におけるフィードバックを各学年職員ごとに行われました。幼稚園へのフィードバックの時間がしっかりとれなかったのが残念ですが、次回はぜひ幼稚園もお願いしたいという声もありました。



宮古島市立平一小学校 9:00~16:45

平良第一小学校では、支援学級の様子や幼稚園の外遊びの様子、3校時から主に1年生の授業を参観させて頂きました。コーディネーターの佐和田典子先生と與那覇裕美先生との事前の打ち合わせもできたのでスムーズに巡回できました。この日、平一小は初任者の研究授業や師範授業など学校の行事と重なっていましたが、休み時間などのちょっとした合間のフィードバックには校長先生も入って頂くなどお忙しい中対応頂きました。



～事後アンケートより～

- 45分間、座って授業を受けることが苦痛に感じる児童もいるかもしれないので、体の軸を動かす、簡単なストレッチを取り入れていきたいです。また、「あせらず、あわてず、あきらめず」を合い言葉にして、子どもたちに接していきたいと思えます。
- 気になる子それぞれに応じたかわり方を教えてもらい、今後の学級づくりの参考になりました。
- 児童の姿勢がだらけるのは合図であるということを知り、今後に生かしていきたいと思えました。
- 困り感のある子ども達の特徴や対応の仕方等をわかりやすく説明して下さって良かった。また他の学校の事例紹介等もあったので今後の参考になります。ありがとうございました。
- 児童を観察するときのポイントを知った。教師が児童観察・児童理解をしっかりと行い、どのような手立てがあるかを考えていかなければいけないと改めて感じた。
- 支援を必要とする児童への声かけや指導法のアドバイスを頂けたので、今後に生かしていきたいです。
- 短時間で1人ひとりの特徴を見抜いてアドバイスして下さったことに驚きです。たくさんコミュニケーションを取って、信頼関係を築いていきたいです。
- 授業観察では、短い時間の中で学級や子どもたちの様子を見ていただき、フィードバックでは、的確にアドバイスしていただきとても良かったです。アドバイスして頂いたことを、これから実践していきたいと思えます。
- 低緊張の子どもへの対応、手立てなどが分かり、試してみたい内容ばかりでした。
- 「あせらないあわてないあきらめない」この気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。名前を呼んでプラスの声かけをするなどをしていきたいです。
- 大人が理屈で分かっていることと子どもが無意識にやってしまうことに大きな差があるということを私たちがきちんと把握して、適切に対応することが重要だということ。「近くにいる先生方から学んでほしい」という言葉がありがたかったです。
- 子どもたちのかかわり方の視点を見直すことができました。担任でない分、子どもたちの特性をどう引き出すのか、関わるのか悩んでいた2ヶ月間でした。先生のフィードバックを生かして教から取り組んでいます。

※申請は随時受け付けております。栄先生との調整が必要ですので、2ヶ月前を目安に申請をお願いします。